

令和三年度ももう六月になろうとしている。二〇二一年の上半期もあと一ヶ月…。皆さんも怒涛の年度初めだったのではないでしょうか？もう半年もすると年の瀬？びっくりしますね。この主観的時間の速さは、年齢とともに加速度を増している。同時に、最近は目が覚めるのが異常に早くなった。

最近、何時に寝ても決まって四時台に目が覚める。さすがに二時に寝てというわけではないが、日付の代わりかけくらいに寝ても同じように目が覚める。気になる不調もない。むしろ、朝の時間が充実することを発見した。毎晩、目覚しアラームのセットを確認するが、翌朝はアラーム音が鳴る前に自ら解除している。この自ら解除の「行為」で、一日の始まりを自ら告げるのである。これが結構いい。数年前までは、アラームを受動的行為として消すことで始まる一日であった。今は能動的に始まる一日である。この違いは案外大きい。おかげで一日が長いし、自分で雷管を鳴らす分、以前よりも前向きな？気もする（笑）。

この「前向き？」と思える時間も、そうでない時間も、客観的には同じ時間として過行くだろう。やるべきことが確実に増えた。仕事も、学生としても、趣味にしても、質量ともに高度かつ増大している。それでも、一日が三〇時間になることはないのである。結果、常に綱渡りだ。次の日の資料が整わないまま…その日を迎え、四時に目が覚め、ぎりぎりセーフなんてこともよくある。計画的に余裕をもって…言ってみたい。「やることノート」は文字で埋まっていくのに、一向に「終った線」は引かれない。今も、こうして現実逃避のエッセイに興じている自分がいる。

以前仕えた省内エース級の二人も、今思えばぎりぎりで乗り切っていた気がする。私が入省直後に仕えた一人目には随分鍛えられた。というか、やめたかった（笑）。彼の手帳も文字だらけ、同じく「終った線」はあまりない。私なりに余裕をもって上げている資料（事前到了を得るべきもの）も積み上げられたまま…高くなるばかり。そろそろ見てくれないと間に合わない。明日声をかけようと思う頃、書類のタワーに上司の手が伸び赤を入れた。その後は矢継ぎ早に的確な指示のシャワーを浴びることとなり、数往復の末、了。上司は、一気に課長、局長、官房長、審議官、事務次官、大臣まで上げ切ってくる。そして、終わった線が引かれて行く。

二人目の上司は、私が三年目ということもあり、多くを私がさばいた。ちよつと、新国立競技場問題が紛糾し、日本スポーツ振興センター法改正の必要が出てきた時期であったため、エース級の彼は、その法案作成メンバーとしても極秘に動いていた。それでも涼しい顔で業務をこなしていた？少なくとも部下からはそう見えた。そんな状況下、ある叙勲案件が降ってきた。通常であれば、旭日中授章だろう。結果、大綬章となった。その調整も極秘？部下には微塵も見せなかった。授与式が終わり一段落した時、「久々に、本気で怒られました」とポロリ本音を漏らした。どちらも常にぎりぎりの調整に奔走するキャリアの日常です。

来年は、「いちご一会とちぎ国体」が予定されている。この夏の東京五輪はどうなるのか？国内スपोर्टイベントとはいえ、五輪の動向による影響は少なからずあるにちがいない。莫大な県予算も投じられている。その末端として、中央政府も地方政府も「胸を張れる決断」をする必要がある。ぎりぎりの調整の中でも、「胸を張れる」意思決定であるならば、関わった人たちにとっては、「前向き？な過去」になるのではないだろうか。